

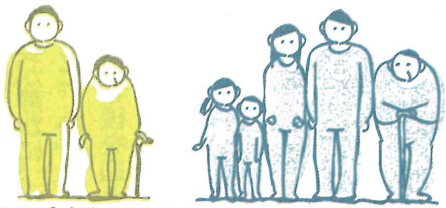
# 親亡き後は…孤立の不安



## 平成とは

第一部時代の転機

▼1面参照

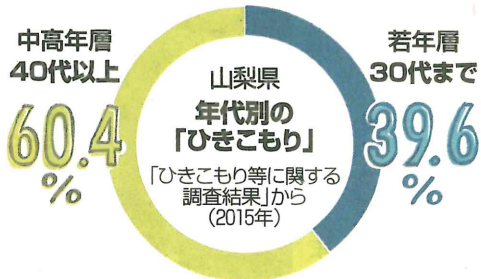


### 「高齢者と未婚の子」の世帯が急増

世帯タイプ	昭和60年	平成元年	5	10	15	20	21	22	23	24	25	26	27	28
親と未婚の子のみ	10.8%	11.7	12.6	13.7	15.8	18.4	18.5	18.5	19.3	19.6	19.8	20.1	19.8	20.7
3世代	45.9%	40.7	35.9	29.7	24.1	18.5	17.5	16.2	15.4	15.3	13.2	13.2	12.2	11.0
その他							29.8	29.9	30.0	30.3	31.1	30.7	31.5	31.1
夫婦のみ	19.1%	20.9	23.3	26.7	28.1	29.7	29.8	29.9	30.0	30.3	31.1	30.7	31.5	31.1
一人暮らし	12.0%	14.8	16.3	18.4	19.7	22.0	23.0	24.2	24.2	23.3	25.6	25.3	26.3	27.1

「3世代」の割合が逆転

「国民生活基礎調査(65歳以上の者のいる世帯の状況)」(各年)から。平成23年は岩手・宮城・福島、平成24年は福島、平成28年は熊本を除く



## 届かぬ「安全網」 支援手探り

少しづつ回復する例もでてきているという。

11月の相談会には、神奈川県川島の女性(74)の姿があった。40代の息子は7年前に仕事を辞めてからひきこもり、昼夜逆転でパソコンゲームに没頭している。会話はほとんどない。

夫と自営の仕事が続けているので、まだ収入に余裕がある。息子には月5万円の「小遣い」を渡し、年金・医療保険料も親持ちだ。だが夫婦が働けなくなった支援はできなくなる。

「息子の暮らしがすべて親にぶら下がっている。お金がなくなれば、あの子は何も食はずじっとしていると思う。極端な話、餓死してしまうかも知れない」

名古屋市の家族会「NPO法人なでしこの会」は2

014年、親亡き後に残された子のために、「ひきこもりサバイバル」ハンドブックを作った。家事の仕方から生活保護の申請まで、必要な情報をやさしい言葉でまとめた。反響が大きく、会のウェブサイトにも掲載している。同会の親の平均年齢はすでに60代後半。将来への危機感も強い。

親に依存する同居中年シングル。そんな世帯が抱える将来の「共倒れ」などのリスクについて、臨床社会学者の春日キスヨは10年の著書で警鐘を鳴らしている。それは続々と現実化している。

一人暮らしと思っていた80代の女性が病に倒れた。支援に入るとゴミ屋敷の奥に60代の息子が暮らしていた。長年のひきこもりで足腰がたたず、介護が必要な状態だった。大阪府豊中市社会福祉協議会の福

社推進室長・勝部麗子が1昨年、直面した事例だ。

80代の高齢の親と50代の未婚の子の世帯が見守り・支援制度のはざまに落ち込み、困窮する。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演したコミュニケーション・デザイナーの窓口のひとつ「仕事・暮らし自立サポートセンター」の窓口のひとつ「仕事・暮らし自立サポートセンター」の大首根の相談員によると、いわゆる「高齢の親と中高年の未婚の子」に関わる相談は「週に1度」の頻度で寄せられるという。

親の死去後に「3日食べない」という窓口を訪れた50代の息子。親子を生活保護につなごうとしても成人である子が面談を拒否するため手続きが難航する例もある。同センターはひきこもりの相談経験がある社会福祉士を配置して対応するが、こうした窓口はまだ少数だ。

## 40歳以上国は未調査

ひきこもりの人の数は全国約54万人。これが内閣府が昨年公表した推計だ。ただし、この数は15〜39歳が対象で、40歳以上は抜け落ちている。

リーマン・ショックの08年、当時40代だった息子が退職に追い込まれ、ひきこもったという西日本のある父親(82)は「ウチの子みたらいな人はたくさんいるのでは。国の調査は実態とずれている」と話す。

一部自治体の先行調査は、中高年ひきこもりの多さを裏づける。山梨県が民生委員に実施したアンケート(15年)においては、ひきこもりの年代は40代以上が6割を占めた。

KHJ全国ひきこもり家族会連合会の事務局長・上田理香は「ひきこもりは青少年問題から中高年問題に

移行している」と言う。40代以上を含めれば100万人を超すという見方もある。内閣府も、40歳以上を対象にした追加調査を実施する検討を始めた。

20〜30年先の未来、わが子やきょうだいがひきこもり、孤立しないと断言できる人はいない。超高齢社会では誰もが当事者になりうる問題だが、親の過保護だ、本人の甘えだという自己責任論は根強い。

「社会で支える合意ができていないなかで、親たちはどんどん高齢化していく」。ある親の言葉が胸に残る。かつて介護保険によって介護問題を「社会化」したように、孤立する親子を社会で支える仕組みをつくれるか。ポスト平成に引き継がれる宿題だ。

敬称略(清川卓史)